



## 驚宮卓話

### 困難の中に射し込む光

太田敬雄

世の中には私たちを不安にさせることが蔓延しています。いつ襲ってくるか知れない巨大地震と津波、経験したこともない巨大な台風、新型コロナウイルスなど、地域を襲う大きな不安の他に個人を不安にさせる健康上の問題、経済的な問題、人間関係の問題など実に色々と有る困難が私たちを不安にします。

それが大きな問題であっても、小さな困難であっても、一度不安に背を向けて逃げようとする、巨大な妖怪のようになって後ろから迫ってきます。そうなってしまうと立ち止まって振り返り、冷静に不安の基を検証することは困難になります。

それでは社会全体、人類全体に影響を与える大きな問題を前に、私たちはどうすればしっかりと対応しながら、今の時代、次の時代への姿勢を考えることが出来るのだろうかと考えていますが、中々良い術は見当たりません。

幾多の問題の中で、コロナ禍の特徴は人も社会も距離を取らなければならないことに有ります。違いを認め合い、手をつなぎ合うことで平和な地球社会を構築するという目標を掲げて活動を続けている IIMS にとって、触れ合うこと、つながることが困難な状況下で何が出来るのかは大きな問題です。

そのような中で、嬉しい動きが有りました。去年の夏の「家族多文化交流 in マラン」に参加された齋藤野乃さんご家族がホームステイした Vita さんは小さな小学校を立ち上げられた方

でした。Vita さんの学校、Mafaza Integrated Smart School はまだ出来立ての学校で、図書室はあっても本棚には数冊の絵本が並んでいるだけだったそうです。Vita さんとの話し合いから、日本から絵本の寄付をする可能性は無いだろうかという事になったそうです。帰国後齋藤さんは、新潟在住の会員と市内に有る敬和学園高等学校のインターアクトクラブの協力を得て、本を贈る運動を



MISS の子ども達

始めました。約 1 年経って、集まった絵本には、一冊一冊に左のようなシールが貼られて送られることになりました。



マランでできた繋がりが芽をだし、世界を潤す果実が実りました。

「家族多文化交流」が

1 年の歳月を経ち、離れいてもさらなる繋がりの発展に展開しています！

今回は第 1 回として 50 冊ほど送るそうですが、今後も寄付は続けられることになりそうです。皆様のお手元にご寄付いただける日本語または英語の絵本などございましたらご協力下さい。

この企画の推進役となってくださった齋藤野乃さんに特別の御礼を申し上げます。



「まなばる」は今年度赤い羽根共同募金の助成を受けました。以下は赤い羽根の「助成レポート」の転載です。

## 赤い羽根共同募金

助成レポート

# オンライン支援で見た “本当の壁”（休校に伴う学習支援活動）



2020年7月8日

### 助成事業の概要

特定非営利活動法人国際比較文化研究所が運営する「まなばる」は、未就学児から高校生までの子に多様な学びと経験の機会を提供する多目的民間教育施設です。今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下の全国一斉休校の際、子どもたちの学びを支えようとオンライン支援を始めました。群馬県共同募金会では「赤い羽根 子どもと家族の緊急支援 全国キャンペーン」の一環で、この取り組みを支援しています。

子どもたちを取り巻く社会を、より良くしたい。

子どもたちに多様な学びと経験の機会を提供する多目的民間教育施設「まなばる」は、3か所(安中市2・高崎市1)で現在300名以上の子が、英会話や5教科などの勉強だけでなく、多文化交流体験などを通じて、互いの考えや文化を尊重し合うことの大切さを学んでいます。

令和2年3月、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の影響で、全国一斉に学校が休校となりました。「まなばる」では、休校に伴う子どもたちの学習の遅れだけでなく、親と子それぞれがストレスを家庭内で抱え込んでしまうのではないかと懸念し、支援のあり方を模索しました。



子どもたちに勉強を教える太田理事長

## 感染症流行下での工夫

学習の遅れを取り戻す支援をするために“オンライン授業”を始めました。子どもたちの生活リズムを調えられるよう、午前中での開催としました。こうしたちょっとした工夫で、家庭内のストレスを減らせれば...との思いからです。

また、オンライン授業で使う教材は、感染に注意しながら、直接親に手渡すこととしました。そうすることで親の話を聞いて気持ちを受け止めることができると考えました。また親同士も会話が弾んで、結果的にストレス解消となったようです。



オンライン授業の様子

## 浮き彫りになった「困ったときに頼る人がいない社会環境」

人との接点を制限されるなか、改めて浮き彫りになったのは、困ったときに頼る相手がいない...という現代の子どもたちの社会環境でした。普通に通学していれば大勢の中で紛れて見えなかったけれど、いざ“Stay Home”となると、頼る人が親しかいない、または親さえも頼れない子がいるということが見えてきました。

そこで、どの家庭でもよくつかわれているコミュニケーションアプリ「LINE」で、学習内容でわからないことを質問できるようにしました。「LINEオープンチャット」で試行開始し、利用料は無料。現在利用している児童は20名、先生は全員ボランティアで現在10名登録です。

実施方法は試行段階です。オープンチャットは匿名性が高いけれど、投稿した質問内容は登録する他の子にも見えるしくみです。学習の質問であれば他の子とシェアできた方が便利ですが、一方で、勉強以外のさまざまな悩みを“ポロツ”とこぼすことができません。

公式アカウント形式であれば、利用児童一人ひとりに個別向き合うことができるけれど、匿名性はないため、登録自体を躊躇する子いるかもしれません。しばらくは試行錯誤が続きます。

支援の“壁”は、物的なものだけではありません。

今回、オンライン授業やLINEによる支援を始めてみて、気づいたことがあるそうです。

それは、「親や家族の意識」が壁になることもある、ということです。

ネット接続は、確かにハード整備が必要ですが、実は設備があってもオンライン授業に参加できない子もいるそうです。

家庭内でネットにつながりやすい場所を大人が占有していて子どもが使づらい、とか。

子どもがスマホをもっていなくても、大人が持っていれば、その時だけ使わせてあげることできるはずですが、そこまでの配慮の必要性を感じてもらえない、とか。

この学びの機会の差に、大人がどのくらい気遣ってあげられるか。

その影響は、学力の差だけではありません。

気遣いとは、相手を尊重すること。

子どものことを大人がどれだけ“対等に”尊重することができるか…共生社会を築いていく礎になるこの思想を、国際比較文化研究所では大切にしています。

共同募金はこれからも、地域の課題に気づいて動き出す人たちを、応援していきます。 <助成レポート終わり>

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

## …時代は変わり、社会が変わっても・・・ 太田敬雄

イギリスのロック・バンド、クイーンが30年程前に発表した The Show Must Go On という楽曲があります。かなり知られた曲らしいですが、実は私はその曲は知りません。けれども The show must go on という表現は鮮明に私の記憶にとどまっています。一つの理想を持って始めたことは継続する覚悟をもって取り組まなくてはならないという使命感・覚悟を表しているかです。

突然の新型コロナウイルスの流行に影響されて、IIMSでもこれまで当然のように続けてきた活動がいくつも続けられなくなりました。例年8月に実施してきました「家族多文化交流 in マラン」、BSS小中学生の受け入れ、「多文化交流 in 釜山」は全て中止。

そのような中で、1面に記しました、絵本の寄付運動の他に9月に実施時期を延ばしての「多文化交流 in ぐんま 2020 夏」と新しい活動が立ち上げられて前に向かって歩みを進めています。

多文化交流ではスタッフの学生たちが工夫を重ね、9月19日にオンラインでの多文化交流、20日に日帰り多文化交流の2本立てを数か月かけて立ち上げてくれました。日帰りの方は残念ながら実施は見送りにりましたが、オンラインの方は韓国とインドネシアから大勢の参加者を得て、全く新しい形の交流を立ち上げてくれています。彼らの「続ける」と言う決意と、それに伴う努力を惜しまない姿勢に大いに励まされています。

スタッフの学生もオンラインのミーティング経験は有っても自分たちで立ち上げる事にはまだ慣れていません。

9月7日には19日の本番と同じ形式でミーティングを実施。実に7時間格闘し、日付は翌日になっていました。

そこに見る彼らの決意と覚悟に感動しています。



6月号のニューズレターでご報告しましたように、2021年度からは「賛助会員枠」を設けました。正会員には議決権という権利と責任が生じます。多くの皆様に長年責任のみを課してしまっていたので、これまでのお力添えに感謝しつつ、その点を是正します。

つきましては<1>現会員の皆様の中で「2021年度から賛助会員ではなく正会員を希望される場合」は、お手数ですがその旨ご連絡ください。年会費は3000円となります。

<2>ご連絡がない場合、2021年度より現会員の皆様は「賛助会員」となります。年会費は2000円のままです。唯一の変化は総会への出欠連絡や委任状提出をいただく必要がなくなる点です。（ご希望があれば総会へオブザーバー参加も大歓迎です。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます

**ご寄付のお願い**：新型コロナウイルスは国際交流をはじめとした IIMS の多くの活動に影響を与えております。助成金や緊急融資を受けなくてはいけない苦状況に置かれています。「月500円」というクレジットカードによるご寄付を選択して下さる方も少しずつ増えています。（自動決済はいつでも停止可能です。）活動を支えていただければ幸いです。

### 会費のお支払い・ご寄付は「クレジットカード」または「郵便振替」で！

#### 【クレジットカードの手続き】



左記 QR コード、もしくは下記 URL からアクセスして頂き手続き・ご登録ください。  
アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれておりますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

#### 【郵便振替】

下記口座にお振込み下さい。  
●加入者名：国際比較文化研究所  
●口座番号：（普通）00510-0-61974  
※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。  
※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。

### 会費・寄付<敬称略・順不同> (6/17~8/31)、

会費並びにたくさんのご寄付を有難うございます。皆様に支えられて、国際比較文化研究所は今後とも「平和な地球社会の実現」に向けての諸活動に邁進して参ります。

正会員入会：菅ヶ谷由美子、野村誠。

（理事・監事は全員正会員。正会員費3千円は2021年度より）

賛助会員入会：杉浦翔太、杉本有規、井上萌。

会費：間庭有美子、水木健一、前田申栄、久米博之・史可、關橋賢、木村隆、杉本有規、幸田一彦、青葉由香、野村誠（21）、上田暢子、宇賀神正美・真実、熊倉浩靖、森泉孝行、鬼形聡子、巢山史枝、岩井均、菅谷晃、狩野真由美、高尾善樹、高山有紀、本島靖子、梶原悦子(19,20)、新井瑞穂、小山直美、杉浦翔太、井上萌。

寄付：關橋賢、ファン翠、杉本有規、東横商店、遠藤稔、宇佐美若菜（毎）、幸田一彦、内野春香（毎）、片岡謙（毎）、藤本慶大（毎）、杉浦印刷株式会社、神戸ルミ、上田暢子、村井田和夫、菅ヶ谷由美子、木暮道子、菅谷晃、狩野真由美、高尾善樹、高山有紀、森泉英司、Rosdiana Febriyanti（毎）、杉山亜湖、栗野好映、山村由美、小山直美、新澤誠治、根岸大輔。

\*注：会費の（ ）はお振込み頂いた年度で、それ以外は'20年度分の会費です。ご寄付の（毎）はカード振り込みによる毎月のご寄付です。

編集後記：◎経費削減のため、今号からニューズレターのメール送信を開始しています。皆様のご協力に感謝です。メール配信をご希望の方はご連絡下さい。  
totatakao.iims@gmail.com (敬)

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所  
事務所：379-0124 群馬県安中市鷲宮 3413-3  
電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393  
研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>  
メールアドレス：totatakao.iims@gmail.com  
まなぱる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>  
メールアドレス：mail@manapal.jp  
郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所  
口座番号 00510-1-61974